

平成27年 6 月 9 日 徳島文理大学

『とくしま新未来「創造」宣言！』 ～全国に先駆けた「一歩先の未来」へ

講師 徳島県知事
飯泉 嘉門氏

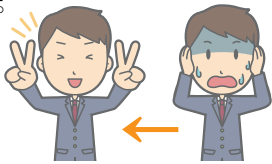


主催：徳島文理大学

とくしま新未来
「創造」宣言とは

課題解決先進県・
徳島

徳島県は「課題解決先進県」として全国から注目されています。例えば、本四高速は料金の高さから「平成の大関所」と揶揄されていましたが、平成26年4月に「全国共通料金制度」が導入されました。さらに、テレビのデジタル化により視聴チャネルが減少するという問題が出たときに、光のケーブルを張り巡らせて、全国屈指の光ブロードバンド環境を完成させました。このように「ピンチをチャンスに」の気概で様々な課題を解決する処方箋「徳島モデル」を創造してきました。



地方創生でも、従来は国に対してお金を要求するだけでしたが、徳島は平成22年に「知恵は地方にあり」として、国への

陳情を止めて、政策提言を行っています。

とくしま新未来創造
宣言の7本柱

- ① 地方創生の旗手！「地方回帰・加速とくしま」
- ② 未来を創る！「経済・好循環とくしま」
- ③ 未来を守る！「安全安心・先進とくしま」
- ④ 未来へ繋ぐ！「環境首都・新次元とくしま」
- ⑤ 未来を支える！「みんな元氣・輝きとくしま」
- ⑥ 世界に羽ばたく！「まなび・成長とくしま」
- ⑦ 世界を魅了！「大胆素敵・創造とくしま」

地方創生の旗手！
徳島の挑戦

陸・海・空が結ぶ
新たな時代の幕開け

去年から今年にかけて、徳島の陸・海・空の交通状況が一変しています。四国横断自動車道では鳴門から徳島のインターチェンジが3月14日に繋がり、阿波踊り空港が松茂インターチェンジ経由で高速道路と直結されました。さらに、沖洲地区

では耐震強化岸壁が完成しました。

地方創生の代表例、
サテライトオフィス

東京・大阪のICT企業が、徳島の神山町や美波町に続々と進出しています。過疎地にこういった企業が進出することによって、フランス料理店が建設されるなど、様々な福祉効果が生まれています。

これからの徳島が目指していく「まち」は、地方創生の新しいモデルとして意欲ある市町村の方々に手を上げてもらい、それを県が応援して「地方創生特区」に任命することで、徳島ならではの「地方創生モデル」を構築していきます。

意欲溢れる「ひと」の創生

東京を始めとして千葉、神奈川、埼玉では医療・介護の手がいっぱいで、これを補うため、高齢者の皆さんに、余裕のありそうな地方に移り住んでもらうてはどうかという議論が起こっています。

その議論の仕掛け人は、徳島県です。



全国では65歳以上の高齢者が2042年にピークを迎えると言われています。しかし、徳島県のピークは2020年で、その後は減少していくとみられています。そして、介護職員は全国5位と非常に高い状況なので、高齢者が居なくなくなってくると、介護職員の働き場所がなくなってしまうと、二丁ズの高い東京へ吸い寄せられてしまいます。そこで、東京に住んでいるが本籍は徳島という人達に、徳島へ戻ってきてもらうという流れを創ろうとしています。

6次産業キャリア
アップシステム構築

日本最高戦略として、6次産業市場規模を2020年に10兆円にするという目標があります。しかし、国には人材育成システムがないので、徳島から作るうとしていま

す。現在、多くの高校が統廃合していますが、新しく高校に「食ビジネス科」や「地域ビジネス科」を作ったり、徳島大学で「生物資源産業学部」を平成28年に設置したりすることで、6次産業化の人材育成を行おうとしています。

これからは人の流れを大都市から地方へ移していくと「ゆかりの徳島・里帰りの事業」を展開していきます。

結婚・出産・子育て支援の進化

平成26年7月に、全国知事会が「少子化非常事態宣言」を出し、少子化対策は国家的課題となっています。このように少子化対策は待ったなしの状況になっていきますが、徳島では全国のトップを切って10億円を自由に使える「少子化対策緊急強化基金」を創設しました。これにより子育て支援などの制度を作り、市町村等による「企画提案型」事業の支援も行いました。さらに、婚活支援のノウハウを持つ企業に運営

を委託し、企業・団体の枠を越え、若者の結婚を支援しました。

また、多子世帯の負担軽減のために、3人以上の子どもを育てやすい環境を構築し、国の制度より一步先んじた支援で、対象児童の8割をカバーするために、第3子以降の保育所・幼稚園「保育料無料化制度」の創設が本年度に行われます。



未来を創る！「経済・好循環とくしま」

LEDバレイ構想・ワールドステージ

昨年のノーベル賞でLEDが非常に有名になりましたが、徳島には日亜化学工業という世界最大のLED生産拠点があります。平成17年にLEDバレイ構想をスタートして、当初は10社だった関連企業が平成23年には123社にまで増え、企業集積によるシナジー効果を発揮させる段階になりました。そして、県立

工技センターを「LED測光試験所」に登録しているの、そこで成績書を受け取ると世界70か国以上で通用します。

また、攻めの姿勢として、東京都庁の近くに常設展示場を設け、出来上がったLED製品を展示しています。

世界に対するPRとして、ドイツのハノーバーで行われる世界最大のメッセで徳島県のLEDがのメインを飾りました。

これ以降、海外で様々なチャレンジを行っていきます。また、昨年のノーベル物理学賞で世界中から注目され、東京で開催されたLEDバレイ徳島フォーラムでは、海外から11か国の政府関係者が参加しました。今後は、123社の中で希望する企業と共に、アジアを始め世界で販売戦略の展開をしていきます。

未来を拓く科学技術の振興

日本の進歩を支えてきたのは科学技術です。徳島では、平成26年3月に「徳島県科学技術県民会

議」を発足し、10月に「徳島県科学技術憲章」を制定してシンポジウムを行うとともに、次世代の科学技術人材育成を行うために「科学技術アカデミー」を平成28年までに創設する予定です。

世界に羽ばたく！「まなび・成長とくしま」の推進

世界で活躍する人材の育成

グローバル化の進展によって、日本国内でも社内公用語が英語になっている企業があります。徳島でも、小・中・高・大学を通じ実践的英語力を鍛えて、徳島・日本の未来を担う人材になってもらいます。

昨年に実験として、ハーバード大学の生徒や徳島のバイリンガルの生徒による協力で、県内外40名の高校生に英語だけを使って一週間の疑似留学体験をしてもらいました。非常に好評で、今年は規模を



若者が創るとくしま

徳島では、人口減少や若者の流出という課題があります。そこで、県内外の大学生に徳島の地域課題を解決してもらうためのサテライトオフィスを設置しています。また、県外にいたる大学生に徳島に戻ってきてもらうために、県外大学生のインターシップを促進していきます。また、徳島には農学部がありませんが、県外9大学、114名を受け入れる農業インターシップを積極展開していきます。

徳島から地方創生、日本創生の実現へ

課題解決先進国・徳島として、処方箋を全国に向けて発信していきます。人口減少という日本最大の課題を、国に協力して解決するという地方の力が問われる時代となっています。ぜひ若い世代の方が、日本、そして徳島県に夢と希望を持って、具体的な行動を起こしてもらえればと思います。